

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 多職種医療ケアチーム

当院は、地域の高齢者医療を担う病院として、患者の ADL と QOL の維持向上を目指し、医師・看護師職員を含む多職種(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、放射線技師、臨床検査技師等)の各医療職員がそれぞれの専門性を発揮しながら協働して指導や診療の補助を行う体制のため、下記が多職種医療ケアチームを設置して、チーム医療を推進しております。

1. ICT 感染制御チーム
2. 身体拘束最小化チーム
3. リスクマネジメントチーム
4. 褥瘡対策チーム
5. CST 排尿ケアチーム
6. 緩和ケアチーム
7. 認知症ケアチーム

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 ICT 感染制御チーム

(設置)

大宮共立病院に院内感染から、患者、職員、来訪者を守るため、予防対策に努めると共に、院内感染発生時の状況把握及び発生原因を調査する組織として、令和5年4月1日より設置する。

(構成メンバー)

医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務・管理栄養士・作業療法士・言語聴覚療法士・放射線技師

(活動内容)

1. 職員への定期的(年2回)な感染対策の研修・教育
2. 週一回の院内巡回
3. 院内サーベランスの実施
4. 月1回の感染防止委員会会議への出席
5. 抗菌剤適正使用の推進
6. 院内感染防止マニュアルなどの策定・改訂・整備
7. 消毒薬の適正使用、手指消毒法、隔離方法などの立案・監視・修正
8. 感染防止器材の選択、不要な経費の削減
9. 近隣施設との情報を共有するための合同カンファレンスへの年4回及び年1回のゾーニング訓練への参加
10. 院内アウトブレイクへの対応

(各部署の役割)

医師	ICT のリーダー 感染対策におけるメンバーへの指示・指導 感染症患者への対応決定
看護師	院内感染を未然に防ぐため、安全かつ衛生的な療養環境の提供 看護部のリンクナースと協力し、各部署の感染対策の改善、定着に努める 看護スタッフへの感染対策の知識の技術の向上のための教育を行う
薬剤師	特定抗菌薬使用届けによる抗菌薬使用状況の把握 抗 MRSA 薬の治療薬物モニタリング(TDM)の実施
臨床検査技師	薬剤耐性菌、結核、ノロウイルス陽性者、CD トキシン陽性者などの迅速報告

	各病棟の感染症患者情報の把握・管理
事務職員	近隣施設との合同カンファレンスの調整 アウトブレイク時の必要物品確保 院内巡回・会議等の議事録作成
その他	院内巡回

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 身体拘束等最小化チーム

(設置)

大宮共立病院における身体拘束等の最小化を目指すための取り組み等の確認、改善を検討する。特に緊急やむを得ない理由から身体拘束等を実施した。またはしている場合の身体拘束等の実施状況や適正について検討し、組織的に身体拘束等を最小化する体制を整備するために設置する。

(目的)

行動の自由を制限する「身体拘束」を最小限に抑えるため、医師、看護師、薬剤師、リハビリ専門職など多職種で構成されたチームで、実施状況把握、3要件の遵守、代替手段の検討、職員研修などを行う。

(構成メンバー)

院長・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士・ソーシャルワーカー・事務

(活動内容)

1. ラウンド及び代替手段等の提案
2. 身体拘束等実施中患者の解除に向けたカンファレンス(チーム会議)の実施
3. 身体拘束に関するコンサルテーション
4. 職員への定期的(年2回)な研修・教育

(ラウンドの実施)

1. 身体拘束等実施中患者へのラウンドについては、早期解除に向け、大宮共立病院リスクマネジメントチーム、看護部リスクアセスメントチーム、看護部虐待・身体拘束防止推進チームが協働で実施する。

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 リスクマネジメントチーム

(設置)

大宮共立病院医療安全管理指針に基づき、それぞれの医療従事者の個人レベルでの事故防止策と、病院全体の組織的な事故防止策の二つの対策を医療安全管理委員会の下部組織として、看護部リスクマネジメント委員会と並ぶチームとして設置する。

(目的)

患者、家族及び職委員の安全な環境を整えることを目的とし、メンバー全員が、それぞれの立場から安全上の問題に取り組み、全職員の積極的な取り組みを医療安全管理委員会に要請し、安全文化の醸成に努める。

(構成メンバー)

院長・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士・ソーシャルワーカー・事務

(活動内容)

1. 医療安全ラウンド及び身体拘束者ラウンドの実施
2. 医療安全に関するコンサルテーション
3. 職員への定期的(年2回)な研修・教育

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 褥瘡対策チーム

(設置)

褥瘡とは、一般的には床ずれと呼ばれ、いわゆる寝たきり状態の方の骨突出部に発生しやすい、皮膚の壊死や潰瘍であり、褥瘡は長時間同じ姿勢で過ごすことで血流の流れが悪くなり、皮膚やその下にある組織が傷ついてしまうために発生する。褥瘡の予防と治療には多方面からのアプローチが必要なため多職種によるチームを設置する。

(目的)

褥瘡の予防には適切な体位変換やスキンケア、栄養管理など多方面からのアプローチが必要であり、多職種から成る褥瘡対策チームが、それぞれの専門家の立場に関わり、褥瘡の予防・治療に取り組むと共に、入院時に既に褥瘡のある方や、院内で発生した褥瘡に対しては速やかにチームで介入し、適切な治療・ケアを提供するように努めることを目的とする。

(構成メンバー)

医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・作業療法士・介護福祉士・医事課担当者

(活動内容)

1. 褥瘡回診・カンファレンスの実施
2. 重度皮膚潰瘍患者への皮膚科回診への同行
3. 褥瘡リスクアセスメント
4. 褥瘡ハイリスク患者への重点的な褥瘡対策
5. 体位分散用具の整備・管理
6. ポジョニングラウンド
7. 創傷被覆材・固定用テープなどの検討
8. 褥瘡管理・予防のための研修企画と実施
9. 褥瘡学会。各メーカー企画の研修会参加による情報収集
10. 月毎のデーター集計
11. 褥瘡マニュアルの追加・改訂

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 CST 排尿ケアチーム

(設置)

尿道カテーテル抜去後に、下部尿路機能障害(尿閉・尿失禁)の症状を有する。または、抜去後に、下部尿路機能障害が見込まれる患者に対して、包括的排尿ケアの介入を行うためにチームを設置する。

(目的)

排尿障害をもつ方が、どうしてそうなっているのかという原因を探ることを重視し、適切な対処方法を検討する。また、排尿に関する知識・ケアを向上することで、尿道カテーテルを早期に抜去し、尿路感染を予防すること共に、排尿を自立に導き、患者の生活の質(QOL)向上を目指すことを目的とする。

(構成メンバー)

泌尿器科医師・看護師・薬剤師・理学療法士

(活動内容)

1. ラウンド及び代替手段の提案
2. 対象患者抽出のためのスクリーニング
3. 下部尿路機能評価のための情報収集
4. 排尿ケアに関するマニュアルの作成と配布
5. 院内研修会の実施

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 緩和ケアチーム

(設置)

主にがんによる痛みや吐き気など身体症状や、不安や気持ちの落ち込みなど心の苦痛の問題などを様々な職種で構成されたチームにより、少しでもその人らしく過ごせるように支援していくため、チームを設置する。

(目的)

医療従事者へのサポートと緩和ケア理念の啓蒙と教育により、全ての患者及び家族に対し、全人的なケアを提供することを目的とする。

(構成メンバー)

医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・ソーシャルワーカー・管理栄養士

(活動内容)

1. 定期的にチーム会議を実施し、緩和ケアの向上
2. 緩和ケアの啓蒙と教育
3. 患者と家族の自己決定が支えられ、QOLの向上に繋がるケアを検索するための事例検討
4. 患者と家族、医療従事者が抱える様々な問題に対するコンサルテーション

医療法人財団 新生会 大宮共立病院 認知症ケアチーム

準備中